

～ 「ながさきけん希望大使」から伝えたいこと～

54歳の時に若年性アルツハイマー型認知症の診断を受けました。

ほとんど外出することもなく、自宅で療養していたときに、家族の会から「自分の体験を話してみませんか」と言われ、家族の会の集いや講演に積極的に参加するようになりました。私の病気を理解してくれる方々との交流が出来るようになり、私の人生は変わりました。

希望大使になってからは、各地の認知症本人の日常生活の様子などを知ることが出来ました。

認知症は一人一人で症状が異なり、薬剤治療もまだまだです。認知症の治療方法は、介護者、家族、そして認知症本人の病状理解次第です。

ぜひ、お近くの家族の会に入会し、皆さんと交流してください。

一期一会、一日一生で日常生活が出来れば、認知症になっても30年間は大丈夫ですので、一緒に頑張りましょう。

ながさきけん希望大使
金井田 正秋 様

